

平成28年度県立大学地域貢献研究の研究成果について（ **完了報告** ・ 中間報告 ）

研究テーマ	福井県企業のアジア事業展開支援に資する政策課題の抽出と情報提供 ー地域経済分析システム（ビッグデータ）等を活用した分析ー
研究期間	平成 27 ～ 28 年度
主たる研究者	【学部・学科】 地域経済研究所 【職・氏名】 教授 丸屋豊二郎
<p>○研究目的</p> <p>本研究は、最近、利用可能となった政府や民間が保有するビッグデータ（「地域経済分析システム」）や企業実態調査（経済産業省「企業活動基本調査」など）の個票データを活用し、福井県企業の国際化の現状と国際化企業の特徴を明らかにし、今後の福井県企業のアジア事業展開を支援するための具体的な政策対応のあり方を検証するほか、アジア各国のビジネス環境比較に関するデータベースを作成・分析し、県内企業の国際化（アジア）戦略策定に必要な情報を提供するのが目的である。</p> <p>○研究成果</p> <p>本研究は平成27～28年度の2年に亘る研究で、28年度は最終年度に当たる。平成28年度は、下記に示した2か年計画の調査研究課題のうち、27年度実施分を除いた研究項目を実施した。</p> <p>第1部では、(3) 企業の国際化と生産性・雇用の関係について分析した。第2部では、地域創生本部が所有する『地域経済分析システム (RESAS)』のデータベース整備の遅れから分析できる情報が得られなかったため、当初予定していた産業マップの作成はできなかった。しかし、『東京商工リサーチ企業情報ファイル』等を活用するなどして、(1) 北陸の中間財メーカーの生産・販売ネットワークの現状分析を行い補完した。このほか、(2) 国際化と地域力（産業集積・イノベーション）の好循環へ向けた政策課題を抽出するための分析に全力で取り組んだ。第3部は昨年度に実施済であるが、作成したデータベースの解題を英語に翻訳するなどして外国からの来客や企業・各種団体などに提供したほか、新たに北陸港湾利便性改善の経済効果分析を行った。</p> <p>本研究の研究項目と28年度に実施した具体的な研究内容とその成果（別添資料）は下記のとおり。</p> <p>1. 福井県（北陸）企業・産業の国際化の現状：『企業活動基本調査』の活用</p> <p>(1) 福井県（北陸）企業の国際化への取り組み状況【27年度】</p> <p>(2) 国際化企業の地域・産業・企業規模間比較とその特性【27、28年度】</p> <p>(3) 企業の国際化と生産性・雇用の関係【28年度】</p> <p>『企業活動基本調査』の個票データを用いて北陸（福井県）企業の国際化の生産性と雇用について、地域（全国9地域あるいは都市圏・地方圏）別、規模（大・中小企業）別、業種別に分析して北陸（福井県）企業の特徴（メリット、デメリット）を浮き彫りにした。まず、労働生産性の地域間比較では、地方圏企業は都市圏企業より個社平均で生産性が18%（北陸は15%）低く、労働装備率（従業者数一人当たりの固定資産額）の低さが労働生産性の押し下げ要因になっていることを確認した。また、大企業と中小企業間の生産性格差は、都市圏では中小企業が大企業よ</p>	

り 28%、地方圏では 23%、北陸では 33%それぞれ低いことが確認された。中小企業と大企業との生産性格差は、地方圏企業と都市圏企業の地域間格差より大きいことが分かった。分析結果から、北陸企業は、①労働集約的で、かつ資本生産性が高いにも関わらず労働装備率が低い（設備投資に消極的である）こと、②中小企業と大企業間の生産性格差が大きいことから、積極的な設備投資と中小企業の生産性向上が課題であることも明らかになった。

2. 企業の国際化と産業集積：『地域経済分析システム（RESAS）』などの活用

(1) 北陸地域（福井県）の生産・販売ネットワーク（産業マップ）の作成【28年度】

(2) 産業集積の検出と集積要因分析【28年度】

まず、『東京商工リサーチ企業情報データ（2014年）』を用いた北陸企業の企業間取引の実態から自社で国際化していない企業でも国際化している企業に製品を販売することで間接的に国際化している企業の存在に注目した。その結果、3都市圏と北陸の4地域において間接輸出している企業は国内販売だけに従事している企業より生産性が高いことを検出した。企業年齢が長く川中産業の多い北陸の企業は生産性の高いものほどグローバル・バリューチェーンに接続する可能性が高く、またそうした間接的な国際化を通じて生産性をさらに高められれば、直接輸出するようになる可能性を秘めていることを示唆した。

また、北陸企業（『工業統計調査』対象企業）の個票データを利用して北陸3県に立地する企業の生産性が産業集積から受けている外部効果を検証した。具体的には、北陸企業は同業種の企業が集積することによる産業集積の外部性から生産性にプラスの効果を受けていることを確認した。ただし、外部性の影響はプラスであるものの、産業集積の成長が更なる外部性の拡大を呼ぶような自律的な成長経路にあるとは言えず、集積の成長が外部効果をさらに大きくするような政策的介入が必要であることを示した。

3. アジア主要国のビジネス環境比較に関するデータベースの作成・分析【27年度】

(1) ビジネス環境比較に関するデータベースの作成【27年度】

(2) データベースの解題：データ分析と解説【27年度】

(3) 北陸港湾利便性改善の経済効果分析【28年度：新規追加】

28年度は、昨年実施したデータベース解題の英語版を作成して外国からの来客や企業・各種団体などに提供したほか、新たに北陸港湾利便性改善の経済効果分析を追加して実施した。これはアジア経済研究所研究員に依頼して実施したもので、「経済地理シミュレーション・モデル（IDE-GSM）」を使って交通インフラ開発の経済効果について分析した。具体的には、北陸新幹線の整備効果をベンチマークとしながら、北陸3港湾の利便性改善の経済効果をシミュレーション分析で算出した。その結果、北陸に大きな経済効果をもたらすだけでなく、全国への波及効果が大きいことも確認できた。3都市圏からロシアや中国への物流ニーズをくみ取り、そこに地場企業が乗る形で構想することで、様々な可能性が広がることが確認された。

研究成果は、随時、『ふくい地域経済研究』に掲載あるいは各種セミナーを開催して福井県企業や県民に還元したほか、県内企業の相談などにも活用した。なお、最終成果は当研究所と北陸AJEC、ジェトロアジア経済研究所、経済産業研究所からなる4機関連携研究の成果『北陸地方創生と国際化・イノベーション』（日本評論社近刊、2017年6月刊行予定）の中に盛り込まれ、全国出版されることが決定した。

※ホームページ掲載用として使用するため、A4 2枚程度で簡潔にまとめてください。

参考資料（図、写真等）があれば添付してください。

(1) 発表雑誌、図書

<丸屋豊二郎>

- ① 「北陸製造業の国際化と生産性—全国 9 地域間の比較分析から—」（共著、『ふくい地域経済研究』、第 23 号、福井県立大学地域経済研究所、2016 年 8 月）
- ② 『北陸製造業の国際化と生産性』（共著、RIETI Discussion Paper Series 17-J-002、独立行政法人経済産業研究所、2017 年 1 月）
- ③ 「北陸経済の直面する問題と地方創生の課題」（共著、丸屋豊二郎編著『北陸地方創生と国際化・イノベーション』、第 1 章、日本評論社、2017 年 6 月刊行予定）
- ④ 「北陸企業の国際化の現状と課題」（共著、丸屋豊二郎編著『北陸地方創生と国際化・イノベーション』、第 2 章、日本評論社、2017 年 6 月刊行予定）
- ⑤ 「北陸国際化企業のパフォーマンスと生産性」（共著、丸屋豊二郎編著『北陸地方創生と国際化・イノベーション』、第 3 章、日本評論社、2017 年 6 月刊行予定）
- ⑥ 「北陸企業の海外展開とイノベーション」（共著、丸屋豊二郎編著『北陸地方創生と国際化・イノベーション』、第 5 章、日本評論社、2017 年 6 月刊行予定）

<松尾修二>

- ⑦ 「韓国と ASEAN との貿易構造」、福井県立大学経済学部『経済経営研究』第 36 号、2017 年 3 月（予定）

2. 講演、シンポジウムなど

<丸屋豊二郎>

- ・「北陸企業の国際化の現状」（福井商工会議所国際経済委員会、2017 年 6 月 28 日）
- ・「躍進・変貌するアジアと日本企業の対応—ASEAN シフトとチャイナ・プラスワンの行方—」（同上）
- ・「福井県企業の海外事業展開—現状と課題—」（中小企業の海外戦略経営塾：敦賀市、2017 年 9 月 21 日）
- ・「北陸地方創生と国際化・イノベーション—北陸経済活性化へ向けた施策—」（韓国全州大学国際カンファレンス、2017 年 11 月 2 日）
- ・「北陸地方創生と国際化・イノベーション—北陸経済活性化へ向けた施策—」（福井県中小企業団体中央会、2017 年 11 月 11 日）
- ・「躍進・変貌するアジアと日本企業の対応—ASEAN シフトとチャイナ・プラスワンの行方—」（2016 年度 IGES シンポジウムでの基調講演、環境省委託事業、IGES 関西研究センター、2018 年 1 月 24 日、神戸市）
- ・『グローバル人材総合講座』（大学連携センターでの講義、15 コマ、2017 年度前期）

<松尾修二>

- ・『アジアビジネス環境比較』（松尾修二、更新、ジェトロ投資環境調査を直近 5 年の動きをアジア各国比較）

3. 新聞、TV、WEB など

- ・「福井の食 輸出拡大—統一ブランド発信を—」（『北陸 針路を聞く』、日本経済新聞、2016 年 5 月 18 日）

4. 海外視察・インターンシップなど

- ・「海外インターンシップ研修（中国）」（丸屋：地域経済研究所主催、2016 年 9 月 4 日～11 日）
- ・福井商工会議所主催「アジア研！Ⅳ：ベトナム視察（製造業編）」（松尾：11 月 29 日～12 月 3 日）
- ・「海外インターンシップ研修（タイ、カンボジア、ベトナム）」（松尾：福井県経営者協会との合同実施事業、2017 年 2 月 16 日～26 日）。